

校長室だより No.36 8月18日(火)  
夏といえば

お盆休みが明けました。本校では働き方改革の取り組みの一つとして今年度は12日から14日を学校閉庁日とし、部活動や補習などの活動を休止して、なかなか夏季休暇や年休を取得できない教職員が休みやすいような環境を整えました。コロナ禍の状況で遠出をするのは難しい状況ではありますが、生徒や教職員がどのようにこの短い夏休みを過ごしているのか大変気になります。(私自身は十分にリフレッシュさせていただきました)

ニュースではこの夏最も短い夏休みは9日間であったと報道されていました。夏休みは児童生徒が学校を離れ、家庭や地域で学校教育では得ることができない体験をし、それによって成長する貴重な期間でもあります。さらに今年に限っては様々な地域の祭りや行事も中止となり、行動も制限されることでますます夏休みの存在価値が薄れてしまっているように感じています。学校教育が地域の教育力を再認識し、「地域に開かれた学校」をめざし地域との協働をすすめている今、その方向性に逆行するような夏休みの「希薄化」に危惧を抱いています。

校長室前の絵本ワゴンは7月中旬からしっかりと夏を感じて欲しいとの思いから「夏といえば」のテーマで選書した絵本を並べています。私の一押しは夏の体温や湿度、音や匂いまで感じることでできる『なつにいちにち』(はたこうしろう/作 偕成社)。生涯を通じて決して忘れることはないであろう夏の記憶が詰まっています。今年の夏、どのくらいの子供たちがこのような夏の宝物を手に入れることができたのだろうかと気になります。

学校は来週24日から2学期が始まりますが、今週から学力向上講座(1,2年生)や進路実現に向けて登校してくる3年生の姿が見られるようになりました。彼らにとってこの夏休みの期間がかけがえのない、意義ある時間であったことを切に祈っています。

